

公益社団法人 全国愛農会

【2015年1月1日～2015年12月31日 事業報告書】

今年は来年3月の愛農会70周年記念大会に向けての実行委員会を立ち上げ、池野実行委員長、飯尾事務局を中心に準備を進めて頂いているとともに、7つの分科会では理事の皆さんにそれぞれの役割を担って頂いている。

3月の総会時に愛農会は広報活動が不十分ではとご指摘を頂くとともに、70周年を含めた広報活動資金として500万円のご寄付を頂き、ホームページのリニューアル、現代農業・うかたま誌への広告掲載、愛農誌リニューアルに向けての準備資金として積極的働きをしている。

愛農高校男子寮トイレ、洗面所、炊事スペースの改修工事の責任を愛農高校同窓会とともに担った。

愛農高校、愛農キャンパスのリニューアル、愛農山林教育のために活用する山とすることを条件にご寄付頂き山を購入、登記手続きに入ったが、理事からの購入と総会決議が必要との2つの問題で保留となっている。

愛農研究所はまだ具体的な内容を示す段階に至っていないので、継続課題である。

営農・就農事業

(事業)

定款第5条

1、農の真使命を自覚し、愛農精神をもって農業を担う人材養成

【実施した事業及び評価】

1-1 第125回愛農大学講座開講

期日・2015年8月8日～16日

会場・愛農学園

参加者・54名(全日程8名、部分参加46名)

定員30名に対して部分参加も含めて54名という受講生となった。企画・広報が遅れてしまったので、十分な広報ができず、部分参加の方が多くなってしまった。受講期間が9日間という事と開催時期が8月ということで農業に関わっている方々は参加しにくいという状況がある。参加者アンケートとレポートによればこの講座の教育的成果は大きかった。

1-2 あいのうこども自然学校

期日・2015年7月18～20日

会場・愛農学園

参加者・21名(小学校高学年)

申し込み希望者が多く、お断りをせざるを得なかった状況。

愛農高校PTA(51期生)保護者の方々の協力を頂いた。子どもが持つ背景は様々で、そ

それぞれの個性に応じたきめ細やかな対応には課題が残った。アンケートでも、よかったと書いている反面、特定の人に対する要望などがあった。2回実施してほしいなどの意見があったが他の行事との関係上、厳しいのではないかと感じる。

1-3 愛農高校との連携

生徒・保護者に向けて、愛農会及び愛農運動の理解と協力

「小谷記念会」

テーマ・「みんなで学校をつくろう」

記念講話・品田 茂

期日・9月26日

会場・愛農高校

参加者・教職員、生徒、会員ほか

愛農高校・愛農会共催

1-4 愛農農業の実施

愛農高校の授業として実施、2年生2単位・3年生1単位

担当は村上真平、山本和宏

持続可能な農業の重要性、自然環境における農業の多面的機能について、農山村の役割と意味について伝えている。

1-5 小谷記念コーナーの企画・展示

小谷純一の遺品・音声・映像の収集と整理・保存

70周年に向けての小谷に関わる資料収集

本格的な収集はできなかった。

2、農業を基盤とする地域社会づくりを推進するための研修事業

定款の理念にある「愛と協同の理想農村建設」を千年続く村づくりと表現して、農村が永続的に維持するためには何が必要なのかについて改めて考えるための村づくりセミナー、研修会の実施。

【実施した事業及び評価】

2-1 千年続く村づくりセミナー

70周年記念大会に向けてのプレイベント

期日・3月21日日本会の総会に合わせて「愛農マルシェ」を開催した。

20グループが森館及び周辺を会場にしてそれぞれの生産加工品、取り組みをアピールした。

会場・愛農学園森館 参加者約300名

千年続く村づくり・シンポジウム・マルシェに向けての実行委員会の開催（毎月1回実施くわしくは別紙）

特設ホームページ(<http://www.aino70.com>)を開設

3、持続可能な農業経営・技術・暮らしの研修事業

有機農業の研修・普及。生活改善・省エネのための研修・普及などを推進してきた。

【実施した事業及び評価】

3-1 農産加工集中講座

期日・12月4～6日

会場・愛農学園

参加者・12人

3-2 命と持続的な暮らしを守るために 愛農サテライトカレッジ

期日・3月25日～9月2日毎月1回全7回

昨年度からの継続事業

会場・大阪市中央公会堂ほか

① 実施目的

食と環境に関するテーマの連続講座を都市部で定期的を開催することにより、普段は直接農業に関わりのない人たちにも、農業や環境に関する問題、持続可能な暮らしと社会づくりに関心を持っていただく事。また現代社会の在り方や日々の暮らしを見直し、行動を起こす過程において、愛農会の活動の周知及び活動への賛同、参加を頂き、愛農会会員の拡大と、食と環境について考え・行動する市民の増加を目的とした。

② 実施概要

各回ともその回のテーマに関するドキュメンタリー映画などの映像を観ていただいた上で、参加者同士で気づいたことや疑問に思うことをシェアしていただき、さらに必要な内容を補足説明して理解を深めて頂くという形で実施した。

③ 実施状況

昨年度実施中は、毎回15名ほどの参加があり、用意した会場が手狭になるようなこともあったが、講師の都合で4か月休みの期間ができ、その後会場を変更したこともあってか、参加者が激減し、第11回は参加者0名、第12回は参加者1名という厳しい状況であった。

但し、サテライトカレッジへの参加から愛農会への新規入会は4名であった。

3-3 担い手養成集中講座（春期）

期日・2月9日～11日（2泊3日）

講師・畑 俊八

会場・愛農学園

参加者・10～20名

3-4 担い手養成集中講座（冬期）を予定していたが、実施できなかった。

4、人材養成と地域づくりを推進するための普及・啓発事業

【実施した事業及び評価】

4-1 月刊「愛農」誌の発行

毎月1100部印刷、1000部発行

当初予定よりも印刷部数を200部減。普及用として1～2割増刷していたが、あまり気味だったので減らしている。

4-2 地域ブロック交流・研修会 愛農誌報告→2015年5月号

期日・4月24日 福島県を中心とする東北ブロック

会場・福島県河沼郡会津坂下町

参加者・11名

5、国内外から農業研修生受け入れ支援

【実施した事業及び評価】

5-1 貸与奨学金の返還

今年度は若干返還が進んでいる。

5-2 奨学資金の確保

特別な取り組みはできなかった。

6、農業・環境・平和に寄与している国内外の諸団体との交流並びに提携

国際部

【総括】

① AFA

AFA 主催の会議や AFA に割り当てられた国際会議への出席など、AFA 議長の村上真平さん（全国愛農会副会長）、若手農民部会の責任者の飯尾裕光さん（全国愛農会専務理事）を中心として積極的に活動を行った。

② 韓日平和交流会

ホームページや機関誌で韓国までの旅程サポートを伴う従来の広報が、旅行業法に抵触。9月の理事会にてうちうちに広報。大人9名、こども3名が参加。正農会の会員から米袋購入の依頼があったので、購入をサポート。厳しい財政状況なので、愛農会事務

局長の山本は自費にて交流会に参加。

③インドスタディツアー

2015年のツアーは14名が参加。愛農会がインドに関わるきっかけとなった牧野一穂先生がツアーに同行、老若男女が混ざったよいツアーとなった。本ツアーに参加された愛農高校48期生1名が4月より継続教育学部で愛農高校49期生とともに勉強中。

9月のツアーは最少催行人員に達せず、実施しなかった。ツアーの実施回数などを見直す必要あり。

④その他の事業

台湾からの国立ピントン科学技術大学の大学生6名をインターン生として1か月ほど受け入れた。この他に、インドからのインターン生1名（チャタジーさんの紹介）を受け入れ。今後、継続して受け入れるかどうか要検討。

【実施した事業及び評価】

6-1 インドスタディツアー

期日・第1回 2015年2月19～3月1日

愛農誌報告→2015年4月号

参加者・14名

期日・第2回 2015年9月に予定していたインドスタディツアーは最小催行人数に達しなかったために実施できなかった。

6月 三浦照男先生とアラーハーバード有機農業組合（AOAC）職員2名が来訪。今年はいじめての試みとして愛農高校の各学年に分かれて交流を持った。

7月中旬～8月中旬 「インドのこどもたちの絵画展」

アーシャ＝アジアの農民と歩む会の協力により、アーシャ学校に通う児童・生徒の絵画を森館にて展示。

愛農高校生や「こども自然学校」の参加者にも見て頂くことができた。

11月9～18 写真展「印度へ」

愛農高校の愛農祭に合わせて実施。愛農高校30期生保護者の松田宗一さんが2月のツアーで撮影された写真約60枚を森館で展示。

6-2 第18回韓日平和交流会

期日・2015年11月9～11日

愛農誌報告→2015.12月号

開催国・韓国・済州島

参加者・韓国33名

国内12名（うち子供3名）

元敬善氏と小谷氏の出会いから生まれた正農会。それから交流が始まって 40 年。この間に数え切れない人々がいろんな形で交流をつづけてきた。有機農業の研修にきた方、愛農高校に留学した人、プルム専攻部で学んだ愛農高校卒業生などなど。その中には国際結婚をされたカップルもいる。今回もそのような学び・体験をした方々 5 人が通訳として参加してくれたことは何よりうれしいことだった。

これから仲良しグループで終わるのではなく、過去の歴史を直視しつつ、両者の歩みをベースにして、新たな出会いを積み上げていくことが大切なのではないかと思う。来年は正農会創立 40 年、愛農会 70 年を迎えることになる。国際交流も大きな節目として次世代につなげていきたいものである。

6-3 AFA (アジア農民の会)

ミャンマー巡回

愛農誌報告→2015.3

2015 年 1 月 25 ～ 28 日

参加者：村上真平

AFA 理事会

2015 年 8 月 2 ～ 6 日 ミャンマー

参加者：村上真平、飯尾裕光

AFA ワークショップ フィリピン

愛農誌報告→2015.10

2015 年 9 月 5 日～ 10 日

参加者：高丸和彦、中西 泉

CSA 世界同盟理事会

愛農誌報告→2015.11

2015 年 10 月 13 ～ 14 日

参加者：村上真平

6-4 インターン受け入れ

④ 実施期間：2015 年 7 月 21 日（日）～ 8 月 21 日（金）の 31 日間

⑤ 参加者：台湾国立ピントン科学技術大学でアグリビジネスマネジメントを学ぶ
学生 5 名、大学院生 1 名の合計 6 名。

⑥ テーマ：日本の有機農業及び流通について学ぶ。

⑦ 主なプログラム

愛農が丘を拠点に、座学・農場実習・視察旅行などのプログラムを通して日本の有機農業全般について学んでいただいた。

⑧ 次回にむけての課題

昨年→言葉の壁・・・担当教諭のウェンチー先生が滞在している間は日本語 or 英語→台湾語への通訳が可能であったため、最初の 4 日間にプログラムを支えるベースとなるような講義を詰め込んだ。その後は英語によりコミュニケーションをとることになったが、学生により理解度はまちまちで、プログラムの吸収率に疑問が残る部分もある。

また言葉の壁があるために実習がただの労働になってしまう可能性が高い。そこを極力避け

るため、実習先を事前に訪れコンセプトなどをしっかりと伝える努力はしたがなお難しい。そこをどうするかが課題。

7、農産物及び加工食品等の認証

【実施した事業及び評価】

○新規認定件数：9件（2014年11月21日～2015年12月15日）

<有機農産物についての生産行程管理者>

- ・グリーンボックス有機農業グループ（新規・三重県）
- ・株式会社ポテンシャル農業研究所（岐阜県からの乗り換え／岐阜県）
- ・畑田農園（岐阜県からの乗り換え／岐阜県）
- ・株式会社錦苑（新規・京都府）

<有機加工食品についての生産行程管理者>

- ・株式会社錦苑（新規・三重県）
- ・株式会社白川園本舗（岐阜県からの乗り換え／岐阜県）
- ・三重茶農業協同組合（亀山茶農業協同組合から改組）
- ・株式会社真誠（名古屋工場）（新規・愛知県）

<有機農産物についての小分け業者>

- ・株式会社龍の瞳（小分け施設の移動のため認定の取り直し）

○審査中案件：1件（2015年12月15日現在）

<有機農産物についての生産行程管理者>

- ・株式会社マックスファーム（新規・三重県）

○廃止した認定事業者：6件

<有機農産物についての生産行程管理者>

- ・森元澄生（自己都合）

<有機加工食品についての生産行程管理者>

- ・亀山茶農業協同組合（水沢茶農業協同組合と合併して三重茶農業協同組合に）
- ・株式会社大阪愛農食品センター（業務縮小）

<有機農産物についての小分け業者>

- ・加野青果株式会社（自己都合）
- ・株式会社龍の瞳（小分け施設の移動のため認定の取り直し）
- ・有限会社山豊（自己都合）

○格付実績

<有機農産物> 生産行程管理者：854,895kg（前年度：660,141kg）

小分け業者：310,290kg（前年度：674,133kg）

<有機加工食品> 生産行程管理者：128,533kg（前年度：112,675kg）

○有機認定講習会

- ・第71回 1月5日～6日 於：愛農 3名受講

- ・第72回 3月19日～20日 於：愛農 11名受講
- ・第73回 6月24日～25日 於：愛農 6名受講
- ・第74回 11月5日～6日 於：愛農 4名受講

○見直し会議 5月28日、12月3日

○内部監査 10月16日実施

○判定会：原則毎週1回実施

- ・岡野渡を判定委員のリストから削除
- ・清水瞳を判定委員のリストに追加
- ・小山高人（現在研修中）

<外部>

○（独）農林水産消費安全技術センターによる事務所調査

2月24日～25日 不適合事項、観察事項等なく終了

○有機JAS登録認定機関協議会による公平性委員会

5月20日 東京・大森（岡野出席）

○2015年度 有機食品等登録認定機関連絡会議

5月21日～21日 関東農政局 [さいたま市]（岡野出席）

○有機JAS登録認定機関協議会 年次総会

5月21日 東京・大森（岡野出席）

収益事業 図書販売と施設設備の運営等

本会の事業推進に資するための農業関連図書の販売と本会本会編集発行の叢書販売、施設設備の運用等を行ってきた。

収益－1 物品販売

福島の会員・大内信一氏の著作が発刊される予定だったが、年度内には間に合わなかった。愛農叢書である医食農同源は小冊子ながら今年に於いても良く売れた。全体としては新企画もなく売上げは伸びなかった。

収益－2 施設設備運用収入

新たな設備としてログハウスの厨房増築が進んでいる。完成は次年度。保健所の許可も取り本格的に稼働していく予定。

月	日	事業名	参加者	会場	担当部門
1	5～6	有機認証講習会	3		認証部
	15	国際部ミーティング (MT)			国際部
	29	会計監査			総務部
	31	第1回理事会			総務部
2	4	国際部MT・インド関連			国際部
	12	70周年事業実行委員会		名古屋	総務部
	13～14	担い手養成集中講座	約40名		教・技部
	19～3/1	インドスタディツアー		インド	国際部
	24～25	FAMIC事務所調査	2		認証部
3	5	国際部MT・村上報告			国際部
	12	福島会津集会			総務部
	14	セーフトラベルセミナー			国際部
	19～20	有機認証講習会	11		認証部
	21	第60回通常総会			総務部
	21	愛農マルシェ			総務部
	25	愛農サテライトカレッジ		大阪	教・技部
	25	70周年事業実行委員会		名古屋	総務部
4	8	四役会議			総務部
	22	愛農サテライトカレッジ		大阪	教・技部
5	8	125回愛農大学講座企画会議			教・技部
	27	愛農サテライトカレッジ		大阪	教・技部
	28	有機見直し会議			認証部
6	9	第2回理事会			総務部
	10	70周年事業実行委員会		名古屋	総務部
	11	国際部MT・台湾インターンシップ関連			国際部
	15	国際部MT 除虫菊プロジェクト関連			国際部
	20	こどもしぜん学校準備会	21		教・技部
	24～25	有機認証講習会	6		認証部
	24	愛農サテライトカレッジ		大阪	教・技部
7	3	70周年事業実行委員会・ランチMT		名古屋	総務部
	7	ホームページ企画会議			総務部
	13	70周年事業実行委員会		名古屋	総務部
	18～20	こどもしぜん学校開校			教・技部

	21~8/21	国立ピントン大学学生インターンシップ	6		国際部
	22	愛農サテライトカレッジ		大阪	教・技部
	23	70周年事業・分科会準備会		京都	総務部
	30	愛農ログハウス増築工事開始			事務局
8	8~16	第125回愛農大学講座開講			教・技部
	10	愛農フェスMT		名古屋	総務部
	19	愛農フェスMT		愛知	総務部
	20	認定業務担当者研修		愛知	認証部
	26	70周年事業実行委員会		名古屋	総務部
	26	愛農サテライトカレッジ		大阪	教・技部
	31	ホームページ企画会議			事務局
9	2	愛農サテライトカレッジ		大阪	教・技部
	5~9	AFAワークショップ			国際部
	14	70周年事業実行委員会		名古屋	総務部
	15	愛農フェスMT			総務部
	26	小谷記念会	約80名		教・技部
	26	第3回理事会			総務部
10	2	四役会議			総務部
	16	有機内部監査			認証部
	21	70周年事業実行委員会		名古屋	総務部
	26	70周年事業・分科会準備会		京都	総務部
11	2	ホームページ企画会議			事務局
	5~6	有機認証講習会	4		認証部
	9~11	韓日平和交流会		韓国	国際部
	19	70周年事業実行委員会		名古屋	総務部
12	3	有機見直し会議			認証部
	4~6	農産加工集中コース	12		教・技部
	8	ホームページ企画会議			事務局
	14	愛農フェスMT			総務部
	17	愛農誌リニューアル検討会			事務局
	21	第4回理事会			総務部
	25	70周年事業実行委員会		名古屋	総務部